



よろんちょう 議会だより

第154号

2025年／令和7年2月13日

発行 与論町議会
編集 広報常任委員会
〒891-9301
鹿児島県大島郡与論町茶花1418-1
TEL 0997(97)3201
FAX 0997(97)4196



ヨロン・おきなわ音楽交流祭 場所：砂美地来館

採択した陳情・意見書

(P3～P4)

12月
定例会

議会報告会

(P5～P6)

一般質問

4人が登壇!町政を問う

(P7～P10)

豪雨による災害状況写真

(P11)

一般会計予算は 58億0947万円

(2億4564万円追加)

主な補正

麦屋漁港公園整備事業費	2000万円
農業災害対策事業費	2010万円
耕地災害対策事業費	5368万円
建設災害対策事業費	2277万円

令和六年第四回定例会を十一月九日から十三日までの五日間の日程で開いた。

十二月九日は諸般の報告の後一般質問があり、4名の議員が登壇し行政全般にわたり活発な議論を交わした。その後の議案審議では、条例案3件、補正予算案6件を原案のとおり可決した。その後、その他3件を可決し、先決処分2件も承認した。

十三日の最終本会議では、補正予算案1件を原案の通り可決した。また、常任委員会に付託していた請願・陳情は、請願1件を採択、陳情については2件を採択し、1件を不採択とした。その後、請願採択に伴う「与論町血液供給体制に関する意見書」を原案のとおり可決し、厚生労働大臣に提出した。

一般会計補正予算

会計名	補正前	補正額	計
一般会計	55億6383万円	2億4564万円	58億0947万円

特別会計補正予算

会計名	補正前	補正額	計
国民健康保険特別会計	8億2377万円	903万円	8億3281万円
介護保険特別会計	7億3600万円	3443万円	7億7043万円
後期高齢者医療特別会計	8684万円	7万円	8691万円

国民健康保険特別会計については、切り捨て処理のため合計額は一致しない。

請願・陳情・意見書

総務厚生文教委員会

◎与論町血液供給体制
に関する請願

提出者

与論町茶花一七五―六

高杉香志也

与論町茶花一四四八―

一〇二

小林 真介

採択理由

日本赤十字社を主体としていた旧備蓄医療機関制度は季節などの条件により交通が遮断される離島等の医療機関のための制度であったが、与論島はまさに合致する。迅速な血液供給体制が最重要であり付随する廃棄血の減少のための対策を講じる必要がある。

また、本土であれば血液製剤は30分程度で届けられるのに対し与論島の場合には平均10数時間を要しており、島内への迅速な血液製剤入手のための方策も

必要である。



血液定温輸送パック

一方、2018年のドクターヘリ運航開始後、荒天、その他の事情により南3島から大量出血を伴う患者が奄美大島に搬送されているが、2018年に奄美大島から血液備蓄所が撤退した。対して2023年10月17日に奄美群島すべての医療機関が賛同し、奄美大島への日本赤十字社を主体とした血液備蓄所再設置を求めている。奄美群島としても鹿児島県町村会、離島行政懇談会、群島議員大会、中央要望においても複

数回にわたって再設置が要望されている。

以上のことから、全会一致で採択すべきものと決定した。

◎学校教材備品の計画的な整備推進について
のお願い

提出者

東京都港区虎ノ門三―

一〇一―

一般社団法人 日本教材備品協会

会長 大久保 昇

採択理由

学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の視点から学習過程の改善を目指すことが大きなテーマとなっており、これを実現するため、今後の授業展開は、観察や実験、体験や疑似体験を通じて、児童生徒が自ら考えることがこれまで以上に大切になると思われる。1人1台の端末が授業で活用される中

で教材備品とデジタル教材の良さを適切に組み合わせることで、児童生徒の理解が更に深まることも考えられる。また、学校教材備品の整備が安定的かつ計画的に実施されるよう総務省の協力の下、令和2年度からの10ヶ年を計画期間とする「義務教育諸学校における教材整備計画」を策定し、単年度で約800億円の地方財政措置が講じられている。



理科実験の様子

しかしながら、各々の自治体における学校教材備品の整備は財源が地方交付税交付金のため、整備予算に大きなばらつきや差が生じることが懸念される。

以上のことから、学校教材備品の計画的な整備推進に努めることが必要であるとの結論に達し、全会一致で採択すべきものと決定した。

◎スポーツ施設利用料金値上げに関する陳情者

陳情者

与論町茶花三五五―三

田中 正廣

不採択理由

砂美地来館の利用料金については、去る9月の第3回定例会において、砂美地来館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例を議決したところであり、その中で各使用料金改訂の適正性につ

いて審議が為されている。65歳以上の方への補助金については元年度アップポイント事業補助金を増額できないかとの要望だが、元年度アップポイント事業を含む地域支援事業は対象サービスクが幅広く、一部の対象サービスクのみに限定的な変更を加えることは他の利用者との公平性の観点から望ましくない。

環境経済建設委員会

以上のことから、全会一致で不採択すべきものと決定した。

提出者 鹿児島県商工会連合会
会長 森 義久
与論町商工会
会長 有村晃治

採択理由



与論町商工会

本町における少子高齢化や人口減少、人手不足や経営者の高齢化・後継者難による廃業の増加への懸念等に加え、地震や集中豪雨・台風等、自然災害への対応や物価高騰等の様々な厳しい状況に直面している事情に鑑み、小規模企業振興に関する条例の制定及び令和7年度補助金の増額、特産品の販路開拓支援に対する補助金を求めていることが必要であるとの結論に達し、全会一致で採択することに決定した。

与論町血液供給体制に関する意見書

与論島は島外へ航空機が2または3便と少なく、船舶も荒天のため欠航、抜港があり与論島として輸血用血液製剤の在庫を多めに持たざるをえませんでした。日本赤十字社が主体としていた備蓄医療機関制度は時間帯・季節などの条件により交通が遮断される離島、遠隔地にあたる医療機関のための制度でありましたが、与論島はまさに合致します。迅速な血液供給が最重要であり付随する廃棄血の減少のための対策を講じる必要があります。

また、本土であれば血液製剤は30分程度で、90%が70分以内に医療機関へ届けられるのに対して与論島の場合には平均10数時間を要し

ており、そもそも前提が異なっております。奄美群島内での離島間血液融通もあり、島内への迅速な血液製剤入手のため、かつ廃棄血を減少させるための方策も必要です。

一方、2018年のドクターヘリ運航開始後、与論島患者搬送先の選択肢は増えたものの、荒天、その他の事情により南3島から大量出血を伴う患者が奄美大島に搬送されています。2018年に奄美大島から血液備蓄所が撤退し、対して2023年10月17日に奄美群島すべての医療機関が賛同し、奄美大島への日本赤十字社を主体とした血液備蓄所再設置を求めています。奄美群島としても鹿児島県町村会、離島行政懇談会、群島議員大会、中央要望においても複数回にわたって

再設置が要望されております。

記

- 1. 旧備蓄医療機関制度に類する日本赤十字社を主体とした仕組みの復活、遠隔地の地域中核病院に対する血液供給体制向上の仕組みを作っていただきたい。
- 2. 離島地域における平時の血液融通を認容していただきたい。
- 3. 日本赤十字社を主体とした奄美大島への血液備蓄所再設置をしていただきたい。

上記1. 2. 3. の実現に向けて厚生労働大臣から日本赤十字社への指導を求めます。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出いたします。

厚生労働大臣 福岡 資麿 殿
鹿児島県与論町議会

トピックス

本町と姉妹盟約を結んでいる南島原市の議会議員の皆様から、先の集中豪雨被害に対する見舞金として、多額の浄財が送られて来た。南島原市議会の皆様に心から感謝するとともに、与論町議会としても、一日も早い災害復旧に力を尽くしていきたい。



見舞金を手にした沖野議長

令和6年12月13日

議 会 報 告 会

去る令和6年11月29日、地域福祉センターにおいて第13回議会報告会を開催した。

内容としては令和5年度決算審査の審議状況と議会からの意見の申し入れの説明、令和5年度事業実施箇所と令和6年度事業予定箇所の説明、採択した陳情・意見書の説明、県職員と県議会議員との意見交換会での要望事項の説明を行い、最後に、奄美群島市町村議会議員大会での提出要望事項についての説明を行った。

その後、質疑応答の他、参加者から貴重な意見、要望、提言等があったが、紙面の都合上全てを記載できなかったことを了承願いたい。



議会報告会の風景

質 疑 応 答

質問 無電柱化事業について、スケジュールや工事の進捗状況、今後の計画等を茶花商店街の事業者に示してほしい。

答弁 スケジュールは一番大切な事項である。建設課にもその旨を伝える。

質問 ウブインジュの対策工事施工後に今回の豪雨被害である。八キビナの台風対策工事

も被害が出ては作りの繰り返しである。県の工事にに対し厳しい目を向けて欲しい。

答弁 現在の対策工事は被災当時の状況に応じて行われている。それを超えるような大規模な工事は難しい。しかし今回は想定外の事態である。これを教訓に今後の工事は進められるものと思う。自民党や公明党の国会議員や県議会議員も視察したので更なる援助や強化をしてもらえるものと思っている。また、先日の中央要望の際も、現状復旧ではなく改良復旧として陳情をしている。

質問 クズレ橋について、海に流出する方向

の水の流れが以前から悪い。砂で埋まっており川の機能が無いところに今回の大雨である。この際、出口側も工事をした方が良くい

ではないか。ウブインジュどころではない。本当にすごい状況だったので是非検討してほしい。

答弁 先日、国会議員や県議会議員にも視察してもらった。今年度改良する予定の箇所だが、今回の被害も承知しており改めて設計しなおすとのことで、被害の話も併せて協力していきたい。また当時、直立の防波堤が出来たことについて実際に良いものか議論もあった。出口付近は割るべきとの意見があり半分程度割った後、水が流れるようになった。台風等で北東の風により砂が集まってきやすく護岸が埋まるくらいに堆砂している。今後、関係課とも共有し、考えていくべきだと思

質問 ギンネムのここ数年の大量繁殖と毒キ

ノコが散見されることについて、現状と対策を伺いたい。また、畜産用飼料は輸入物があるがこの中にも胞子や様々なものが入っているのではないかと



ギンネムの木

答弁 ギンネムは機械的処理にしろ人的処理にしろ町民の協力が必ずやなので、協力をもらいながら進めていきたい。決算委員会でも町への申し入れ事項としてギンネムの対策も入れている。キノコについては、産業課に問い合わせると、販売しているもの以外は食べないようにとのことである。今のと

ころ毒キノコが繁茂しているとの実証は無いので把握してから検討したい。

質問 岩下富孝氏宅前から県道方向の道路が昭和50年代の畑総事業時からずっと途中で止まっている。災害避難時には一番使う道ではないかと思う。この際、地権者にお願いで道路ができないか。

答弁 その件は以前から聞いており、畑総事業で同意を得られなかった箇所である。環境経済委員会が関係課と協議し、良い方向に進めていきたいと思っている。

質問 今、学校の建替え、給食センター、死亡獣畜処理場等お金のかかる事業が目白押しである。昔に比べて予算額も増えているが、工夫して更に予算を獲得し、福利厚生、産業

振興に取り組んでもらいたい。



学校給食センター

答弁 那間小、給食センターの建替え等、しっかりと整理をし優秀な計画を進めている。我々もしっかりとチェック機能を果たしながら少ない経費で最大の効果を上げられるよう頑張っていきたい。

質問 岸本地区、朝戸地区の土地改良事業も時間がかりすぎている。予算はまとめてとって、事業を一気にやってもらいたい。畑総事業の予算も非常に

足りないと思っている。

答弁 県の予算が小出しにされる傾向がある。一、二年で集中してやれば効果も高まるのにと我々も思っている。行政のお尻を叩きながらやっていきたい。

質問 換地委員をやっているが体力も相当厳しい。九十六歳の方もいる。交代したくても替えもきかない。生きているうちに早く済ませてもらいたい。また、港と空港の整備も頑張ってもらいたい。

答弁 港や空港の整備は、皆さんの声と議会も一致して取り組まないと実現は厳しいと思う。しっかりと話し合いをして熟議を重ねて目標を一つにして取り組んで行ければと思っている。疑問点があれば各議員に話してもらいたい。

意見・要望・提言

質問 南西諸島に一機、固定翼機とか多目的ヘリを配備してもらいたい。条件不利性を解消したいという思いだ。知事にもR5年2月に要望している。



ドクターヘリ

このグループホームの整備をお願いしたい。現在ケアホームは満床(十床)である。県の障害者福祉計画にもあるように整備促進に取り組んで欲しい。精神障がい者の長期入院者の地域移行も進められているが住まいが無い。長期入院者の家族も介護負担があり、やはりグループホームは必要な場所だと思つて。

以前一般質問で町長からは新規事業者に対しての支援と在宅への支援強化が出来ないかの答えだった。
答弁 総務委員会で行政も交えて所管事務調査を進めていきたい。

質問 鹿児島県と沖縄県は連携協定を結んでおり、非常に良い感じに進んでいる。今後も充実するよう頑張っていきたい。

質問 住まいの場とし

答弁 非常に大きな懸案事項であり、行政にも再三申し入れている。現町長の施政方針に「まずほ町民の意見を幅広く伺いながら県・関係省庁並びに輸送事業者、船会社等と引き続き連携し問題の背景を精査し対策に取り組んでいく。どの方法がベストなのかベターなのかを皆さんの意見を聞いて取り組んでいきたい。」とある。近いうちに港に関する意見交換会があると思う。また、町政報告会(まちづくり懇談会)も行われると思うので、その中で皆さんも意見をまとめて要請してもらいたい。

質問 観光客が今回もまた抜港したという。気持ちよく帰ってもらうため、抜港問題を何とかしてほしい。是非中央に上げて良い方向に導いてもらいたい。



一般質問

4人の議員が登壇、町政を問う

町長 貴重な観光資源としてガイドラインへの掲載を検討したい。
与論の郷土料理を継承する仕組みづくりを



吉田 剛議員

郷土料理の継承

吉田議員 本町において、国の重要無形民俗文化財に指定されている十五夜踊りやヤーナー、方言といった伝統的な文化が今も大事にされ、与論らしさとして観光PRにも大きく影響してきている。一方で食において、島の郷土料理を今後後世に残していくことも、更なる観光の強みや雇

用の創出にもなりうる
 と考えるが行政として
 はどのような考えてい
 るのか。

町長 本町の歴史、文化の保存・継承については、十五夜踊り保存会を始めとする文化協会に所属する各種団体による取り組みや公民館教室、与論カルタ大会の開催や方言教室、学校給食での郷土料理の提供など、多方面での取り組みを行っている。

島の伝統文化を次世代に継承することは非常に重要であるとともに、貴重な観光資源になりうると考えている。

本町では、昨年度、観光・文化活用保全ガイドラインを策定し、有形



料理体験のミシジマイ



郷土料理：ピャースー

文化財のリスタ化や観光活用、保全対策について定めたところである。今後は無形文化財についても同様にガイドラインへの掲載を検討しており、郷土料理についても対象としたいと考えている。

また、昨年度策定した宿泊施設や飲食店向けのサステナブルガイド

ラインでは、当該事業者が取り組むべき指標として「郷土料理の提供」を項目に入れており、今後は飲食店や宿泊施設等とも連携して郷土料理の提供を推進していきたいと考えている。また、観光協会でも、女性団体等と連携し、観光客向けの郷土料理体験プログラムを造成・販売し

ているところである。地元の伝統文化である郷土料理を観光プログラムに組み込むことで、観光客の魅力度向上と観光による地域への経済波及効果の最大化につなげるともに、観光振興を通じた後世への文化継承にもつながっていききたい。

防災減災強靱化計画をどうするか

町長 排水路機能の保全強化や浸水冠水対策を進める。



高田豊繁議員

大型降雨等大規模災害発生に対する支援対策や今後の防災減災強靱化計画と対策

高田議員 今般の大規模降雨災害に対する復旧工事と今後の防災減災対策が必要と考えるが、町一円の防災減災強靱化対策計画を伺いたい。

町長 今後の大雨に備えた防災・減災対策としては、ウプインジュ流域の治水対策の強化をはじめ、町内一円の排水路機能の保全及び強化、窪地や低地にある住家や道路等の浸水並びに冠水対策、ため池周辺の排水対策、農地の法面や表

土の保全対策などに取組んでいく。

また、地域住民の防災力の強化に努め、自宅や農地周辺の排水路の点検や保全活動を推進するほか、土のうの有効活用などを支援していく。

高田議員 甚大な被害を受けた、災害救助法適用となったが、甚大被災者の方々へのお見舞いや支援対策措置はどのように考えているか伺いたい。

町長 住家で床上浸水以上の大きな被害があった方には、災害救助法による生活物資の支給を行っており、被災した家屋に居住できなくなった方には町営住宅を避難先として提供し、住居の確保を行っている。

また、各地から寄せられた寄附は、大きな被害

を受けた方を中心に支援金を届ける準備を進めている。今後も国の制度等を活用しながら、支援を継続していく。

高田議員 特に洪水被害の大きかった与毛田信号付近と叶地区貯水池や与舎地区貯水池の洪水対策は今後の重要事項として取り組む必要があるが考えを伺いたい。

町長 与毛田信号付近の洪水対策については、与論島製糖のボックスカルバート工事まで完了しており、今年度は橋の架け替え工事を行う。さらに、浸透池の整備と排水路の改修工事を行い、下流域への負荷を抑制する。

また、叶地区や與舎貯水池区域も豪雨対策で重要な地区である。現在、各集落で農業に関連

した困り事等の聞き取りや現地視察を、県沖永良部事務所と共に行っている。その中で洪水対策についても、事業化に向けた協議を実施する。

老朽化が激しい那間小学校校舎の建替整備

高田議員 那間小学校は昭和33年頃鉄筋コンクリート校舎が建設され築65年以上が経過しており、早期の建替整備が必要だが、今後の計画について伺いたい。



那間小学校校舎

教育長 校舎の建替えは、現校舎の老朽化が激

しいので、大規模改修ではなく建替えを行うこととし、一時的な校舎として鉄骨造りの校舎を整備し、令和8年3月に現校舎から移転できるように進めていく。

また、新校舎建設検討委員会を設置し、建替え計画について協議していく。

公衆便所の洋式化整備

高田議員 既存の公衆便所は、和式から様式への改修が必要と考えるが、今後の対策を伺いたい。

町長 現在、奄美群島成長戦略推進交付金を活用して手すりやスロープなどのユニバーサル対応と併せて洋式化ができるよう予算要望を行っている。利用頻度の高い施設や和式しかない施設等から優先的に整備を進める。

気候変動の加速による自然災害等への対策は

町長 今回の豪雨災害を教訓に防災施策の強化を図る。

災害対策



吉田 勉議員

吉田議員 近年、気候変動による自然災害が全国的に多発、大地震や津波等が予測されているが、有事の際の対応など専門的な部署を設ける必要性を感じるが見解を伺いたい。

町長 昨今の異常気象や巨大地震・大津波への備えの観点から、必要性を感じるが職員数や専門職員の育成・確保、他の業務との兼ね合いの課題もあり、今後の検討課題と考えている。専門部署設置の検討と並行し、担当職員のスキルアップや全職員の危機管理能力の向上に努める。

先般行われた、消防庁、気象庁等や町内各種団体関係者の図上訓練や豪雨災害で得られた教訓を活かし、防災施策の立案と実践を推進していく。

吉田議員 今回の豪雨は、時間雨量・日雨量ともに記録的なものであった。今後、気候変動が加速し更なる事態も想定されるので、用水路及びため池等への流入水路及び流出水路等の再点検及び改修整備は緊急と感じるが見解を伺いたい。



農地の被害状況

町長 各集落の公民館長へ、多面的交付金の活動による排水路の点検

及び伐採土砂上げ等の強化をお願いした。今回の豪雨災害を教訓に、復旧及び改修の工法を再検討し強化に努めていく。

ブジョウ墓の調査及び保存

吉田議員 ブジョウ墓及びその周辺は、島の歴史を知るうえで貴重であり、更なる調査や保存が必要と感ずるが見解を伺いたい。

教育長 ブジョウ墓は、町誌にも記載されているが、その詳細は不明であった。

今回、琉球大学の協力を得て調査を行い記載されている年代観と合致する時代の遺物や遺構が確認された。また、隣接地である共同納骨堂建設予定地からも時代を遡る鎌倉・室町時代の遺物や遺構も確認された。今後、追加調査も

検討しており、文化財保護審議会でも審議を行い調査・保存に努める。

共同納骨堂の建設予定地

吉田議員 共同納骨堂の建設予定地は、今回の土砂崩れの現場の頂上に近接しており、また崖地や活断層の真上に位置していることから、防災上、建設場所の変更検討が必要と感ずるが見解を伺いたい。

町長 共同納骨堂建設予定地について、現地確認の際の伐採で史跡が現れ、その後の調査で鎌倉・室町時代からの貴重な史跡であることが判明した。当該地は傾斜地に接しており、当初の計画では敷地造成工事により安定地盤を確保したうえで建設する予定であったが、周辺の発掘調査の結果を受け、さら

に本格的な調査と文化財保護に適した敷地造成工事の必要が発生した。それにより当該地の建設は、経費と時間の面でデメリットが大きい。また、当地は崖地に隣接しており、先日のような豪雨では周辺が崩落することも想定されるので、改めて候補地の再検討を行う。



ブジョウ墓周辺(北側より)

今後、与論町墓地基本計画に基づき周辺地を優先的に調査・検討し、早急に新たな建設予定地の確保を行い、引き続き共同納骨堂整備に取り組む。

子どもの第三の居場所づくりの状況は

町長 令和8年4月からの開所を目指し準備をしている。



池田理恵議員

災害対策

池田議員 先日、線状降水帯による水災害が発生した。下校時刻の頃には道路と畑の境目が分からないほどの場所もあり、安全とは言えない状況にも関わらず、教育機関によって下校の仕方に差があった。子どもの安全を第一に考えるべき教育機関において、指示の差は保護者からも不安の声が上がっている。なぜこのような差ができてしまったのか、当時の状況と今後の対策について伺いたい。

教育長 今回の豪雨災害時の下校の指示で、各学校の下校の仕方に差

が出たことは、深く反省すべきである。教育委員会として、各学校に大雨時の下校について配慮するよう指示すべきであった。当日は、教育長が不在だったこともあり統制がとれなかった。小学校では保護者に

迎えを依頼したが、通行不能な箇所が出現したり、迎えの依頼メールが届かないケースが生じるなど混乱が生じていた。中学校では、放課後の活動を中止し下校指導の上、生徒はそれぞれ下校した。

当日は小中高合同の音楽発表会があり、会場の砂美地来館には多数の児童・生徒や保護者が集合していたので、途中での中止・散会は難しかったと思われる。今後は、緊急時に学校行事等を早めに中止・延期したり、午前中で下校させるなど適切な指示を下せ

るよう、判断基準を見直し、環境整備を進める。また、保護者への連絡体制や、引き渡し訓練の再検討を行い、災害発生時における児童・生徒の安全確保のための各種対策の更なる拡充を進めていく。

地域ぐるみの子育て支援体制の充実

池田議員 現在与論中学校において、部活動の地域移行が推進されている。「地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てる。」という意識の下で、生徒の望ましい成長を保障できるよう、地域の持続可能で多様な環境の一体的な整備により、地域の実情に応じスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、体験格差を解消することを目指しているが、保護者への理解と人材確保につ

いて現状を伺いたい。

教育長 例年3学期に地域移行の効果を測るために、生徒・保護者・教職員にアンケートを実施しており、その際の資料を通して周知している。来年度は新学期での配布物やPTA総会等、保護者への周知の機会を増やしていきたい。また、体育協会やヨロンスC等と連携して人材確保に努めている。現在、野球、サッカー、女子バレー、卓球、吹奏楽部は地域移行されているが、男子テニス、弓道、美術は地域指導員が決まらず地域移行がされていない。

を整理していくのか、今後の計画と見解を伺いたい。

町長 未就学児から中高の児童・生徒を対象とするが、保護者も利用できる場所となるようにしたい。

池田議員 子どもが安心して過ごせる居場所として、第三の居場所づくりを推進しているが、現在どのような子どもたちの利用を想定し、目的に応じた体制

総合グラウンド管理棟の改修工事を行い、令和8年4月からの開所を目指している。保育士などの専門資格を有するスタッフが必要である。運営は外部委託を考



総合グラウンド管理棟

えているが、多くの人がボランティアで運営に参加できる体制を整えていきたい。

線状降水帯発生による豪雨災害状況

被災された皆様に、心からお見舞い申し上げます。



岸本池周辺



東与舎ため池周辺



東与舎ため池周辺



兼母源手名線



ウプインジュ周辺



与論病院前



ピャーヌパンタ



産業通り



空港トンネル北側



西区岸本地区



朝戸地区



伊波石仁線



宇宮沈砂池周辺



増木名川周辺



古里地区水路

わたしもひとこと



段原 修司氏

心に火を灯す

以前勤めた学校で、講演会の講師として星出彰彦宇宙飛行士を迎えたことがある。スペースシャトル・ディスカバリー号で宇宙から帰って来て間もない星出さんの語る姿は、とても大きなインパクトがあった。打ち上げから8分30秒後には宇宙に到達したこと、地

プロフィール
氏名 段原 修司
住所 与論町茶花
職業 茶花小学校長



スペースシャトルディスカバリー号

球の周りを90分で1周するため24時間の間に日の出、日の入りを16回見ること、機内でのクルーの様子など、話を聞いてみると宇宙が意外に身近に感じたものである。そんな講演の最後、宇宙飛行士になるためには「親の言うことをよく聞くこと」、「友達を大切にすること」、「友達を大切にすること」という二つの言葉を残された。聞いていた子供たちにこの二つの言葉がどのような浸透したのだろうか。高校時代のこと、化

学の先生は、プロ野球元巨人軍の植原寛己投手に似た顔の、テンポのよい授業をしてくださるM先生だった。日頃から感情を顔や言葉に分かりやすく出され、人間味があり、化学の授業は楽しみな時間となっていた。大学受験に向けて多くの演習問題をこなしていた時期と記憶する授業で、M先生がした質問はアミノ酸に関することだった。他は誰も手を挙げない中、私一人だけが挙手したのは珍しいことだった。大きな緊張を感じながら、M先生の怪訝そうな表情は「ん？段原、本当に大丈夫か？」とすぐに読み取れた。緊張感には益々高まったが、実は、偶然前日に取り組みんだ問題集にそのことが載っていたのだ。試験で問われるようなものではない、いわゆる

豆知識のようなものだったのだが、私が正解を答えるとM先生は目を丸くし、表情は和らいで見えた。私の心に火が灯った瞬間の一つだったと思っている。この一連のやり取りは私にとって、化学という科目をそれまで以上に得意科目にしたと思うようにしたとともに、周囲に認められることを実感する強烈な時間だった。現に、中庭側の席に座っていたことまで覚えていられるほど鮮明な記憶である。おそらくは私だけの記憶であろう。私は教師という職業を選択した。M先生と同じ土俵に上がったのだ。それからこれまでに30年余りの教職生活を過ごしたものの、どれほどの子供の心に火を灯すことができたのだろうかなんて振り返るのはおこがましく、い

ささか恥ずかしさを覚える。ただ、人は、人との出会いやちよつとした言葉、行動、姿勢、対話、そして様々な事象や物事への向き合いなどによっていつでも心に火が灯ることを自身の心に留め置き続けたい。これからも人物・事との出会いを大切に感じられる人でありたい。



心に火を灯すイメージイラスト

《編集後記》
昨年十一月本町を襲った記録的大雨は、24時間雨量600ミリに迫る観測史上最大で大雨特別警報も発令された。被害も甚大なもので、災害救助法が適用されるほどのものであった。幸い人的被害はなかったが、茶花商店街やその他住家において床上浸水46件、床下浸水68件、道路・農地の損壊や土砂崩れ等、かつてない被害であった。被災された皆様に心からお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復旧を願いたい。
令和七年が幕を開け、二日には盛大に二十歳の集いが開催された。若者達の輝かしい未来を祝福するとともに、本年こそ災害のない穏やかな年になることを切に願う。(大田)